

新正書法準拠
Nova Ortografia

増補改訂版

基礎ポルトガル語文法

Nova Edição Revista e Aumentada
Gramática Essencial do
Português

SAMPLE

彌永史郎 著

Shiro Iyanaga

SAMPLE

はじめに

本書はポルトガル語を基礎から学ぶための文法書です。

ポルトガル語はヨーロッパのポルトガル、南米のブラジルをはじめアフリカのアンゴラ、カーボヴェルデ、ギニア・ビサウ、サントメ・イ・プリンシペ、モザンビークなどの国々、さらにはアジアの東ティモールに至る広い世界で用いられる言語です。その使用人口は2億8千万人、世界第4位の言語と言われ、世界各地に散在するポルトガル語系コミュニティも含めるとその通用範囲は広大です。またラテン系諸語のひとつで、イタリア語、スペイン語、フランス語、などとも共通項の多い実用的な言語です。

この本で学ぶ文法は広大なポルトガル語圏におけるコミュニケーションの軸となる標準的な書き言葉の文法です。文語文法というと、いわゆる学校文法として知られる規範文法を連想する向きもあるかもしれませんが。しかし本書ではポルトガル語の実用的な言語使用に即した実証的な研究成果を盛り込み、標準的な文語文法を簡潔に解説すべく努めました。

東ティモール人とブラジル人とが互いにポルトガル語で話が通じるのは、その基本となる言語の規則、つまり文法を共有しているからです。むしろ標準的口語は時代と共に少しずつ変化し標準的な文語に反映していきませんが、文語の変化は口語に比べてゆるやかで、その骨組みとなる文法は簡単には変化しないのです。

言語の根本は音声ですから、発音や音調に関する重要な解説をはじめ標準的な口語に関する重要な項目もできる限り盛り込むようにしました。正確で標準的な発音を学べるよう、必要に応じて国際音声アルファベットに基づく正しい音声表記を併記してあります。

ポルトガル語圏には大きく分けてヨーロッパのポルトガル語 (PE) とブラジルのポルトガル語 (PB) の2種類の言語グループがあります。最近ではインターネット経由でポルトガル語圏アフリカ諸国の人々が話すポルトガル語も容易に耳にできるようになりました。こうしたアフリカ諸国では PE に準ずるポルトガル語が概ね標準とされています。PE と PB の両者は音声をはじめ、語彙、形態、統語、意味などさまざまな点で体系的対照を見せています。本書では PE, PB 両者の文法事項について、必要に応じた解説をバランスよく加えてあります。読者は自らの興味や必要に従って、どちらかに重きをおいて学習する

とよいでしょう。すでにポルトガル語を勉強したことがあり、基礎的な素養のある方が知識を見直すためにも十分な内容が含まれています。

本書では2016年に完全に移行した新正書法に準拠すべく、旧版を改訂しました。改訂にあたり、内容を精選し簡潔で十分な解説に配慮しました。同僚の上田寿美先生、岐部雅之先生に校正をお手伝いいただき、練習問題の編集・作成には上田先生のご協力に大きく負っております。またポルトガル語の範例文の校閲は同僚のカリーナ・サルダーニャ先生に、初版の索引作成には塚田智恵先生に大変お世話になりました。皆様の緻密な修正と真摯な提案によって改訂版が可能になった次第です。記して深謝いたします。

本書では基礎的な内容を中心に、中級・上級の文法事項についても参照可能な構成にしています。学習者の便宜のためインターネット上で参照できる様々なポルトガル語関係のサイトやアプリケーションを巻末で紹介しました。オンライン辞書、動詞活用表（音声表記付き）、文法用語小辞典、正書法語彙表(VOP)など携帯端末からも容易にアクセスできる重要なツールを活用して下さい。

外国語の表す意味に到達するには、正しい文法への理解が不可欠です。ポルトガル語の修得を目指す読者の皆さんが、本書を通じて、さらに深く正確なポルトガル語のコミュニケーションを達成されることを願って止みません。

2018年1月

改訂版第1版を上梓して以来散見された誤植等を修正し、さらに前置詞に関して加筆し、このたび増補改訂第3版を刊行することとなりました。例文の校閲にはいつもながら同僚のペドロ・アイレス先生に、本文校正には久保平亮氏に大変お世話になりました。『ポルトガル語四週間』のダイジェスト版を目指して2007年に始めた仕事が少々方向を変えて一区切りついたと思います。記して皆様のご協力に御礼申し上げます。

2022年11月

著者しるす

目 次

第1課	1
1.1. 発音と正書法	1
1.2. 文字	1
1.3. 音声記号	2
1.4. アクセント記号	3
第2課	5
2.1. 注意を要する子音字	5
2.2. 強勢とアクセント記号	7
第3課	11
3.1. 名詞の性と数	11
3.2. 文法性と自然性	11
3.3. 文法性の区別	11
3.4. 名詞の数	13
3.5. 定冠詞と不定冠詞	16
3.6. 存在をあらわす動詞 haver の用法	16
3.7. 人称代名詞と敬称代名詞	17
3.8. 叙述動詞 ser の直説法・現在形	17
3.9. 文法的人称と機能的人称	18
3.10. 親称の主格人称代名詞	18
3.11. 肯定文と否定文	19

目次

第4課	21
4.1. 定冠詞・不定冠詞と前置詞の縮約.....	21
4.2. 叙述動詞 estar の直説法・現在形	22
4.3. 叙述動詞 ficar の直説法・現在形.....	23
4.4. 定冠詞の用法.....	23
4.5. 不定冠詞の用法.....	27
4.6. 数詞の用法 — 1から20までの基数と序数.....	28
4.7. 曜日名、月名.....	29
4.8. 季節の名称.....	30
第5課	33
5.1. 形容詞の用法と位置.....	33
5.2. 形容詞の性・数.....	33
5.3. 形容詞の文法性.....	34
5.4. 形容詞の数.....	37
5.5. 動詞 ir, vir の直説法・現在形	38
5.6. 疑問詞 onde の用法	39
5.7. 数詞の用法 — 21から100までの基数と序数.....	40
第6課	43
6.1. 規則動詞の分類.....	43
6.2. 動詞変化.....	43
6.3. 直説法・現在形の活用と発音：規則変化動詞.....	43
6.4. 叙述動詞.....	46
6.5. 数詞の用法 — 101以上 1,000 までの基数と序数.....	49
6.6. 数の表現 (1,000 以上)	49
6.7. 概数	50

第7課	53
7.1. 平叙文と疑問文：音調の役割	53
7.2. 音調の基礎	53
7.3. 疑問詞 quanto(s), quanta(s) の用法	55
7.4. 疑問詞 quem の用法	56
7.5. 不定冠詞の複数形	56
7.6. 文の種類	56
7.7. 付加疑問文	57
第8課	61
8.1. 人称代名詞	61
8.2. 前置詞とともに用いる人称代名詞	61
8.3. 前置詞 + si および consigo の用法	62
8.4. 人称代名詞の用法 — 無強勢代名詞の位置 — 1	62
8.5. 指示詞	65
8.6. 指示詞の用法	66
8.7. 所有形容詞	67
8.8. 疑問詞 que の用法	68
8.9. 疑問詞 como の用法	69
8.10. 疑問詞 quando の用法	69
8.11. 時間の表現	69
第9課	73
9.1. 人称代名詞、o(s), a(s) の形式	73
9.2. 無強勢代名詞の位置 — 2	75
9.3. 指示代名詞としての o(s), a(s) の形式	75
9.4. 無強勢代名詞の縮約	76
9.5. 副詞	76
9.6. 不規則動詞	78

目次

第10課	85
10.1. 比較	85
10.2. 形容詞の最上級.....	86
10.3. 比較表現.....	88
10.4. 疑問詞 qual の用法	89
10.5. 関係代名詞 que の用法	90
10.6. 関係代名詞 quem の用法	91
10.7. 関係代名詞 qual, quais の用法	92
10.8. 不定詞.....	92
第11課	95
11.1. 助動詞.....	95
11.2. 現在分詞.....	95
11.3. 助動詞の主要な用法.....	96
11.4. 現在分詞を伴う動詞迂言表現.....	99
第12課	103
12.1. 関係代名詞の用法.....	103
12.2. 不定代名詞.....	104
12.3. 接続詞としての que の用法.....	108
12.4. 疑問詞 porque por que の用法.....	108
12.5. 無強勢代名詞の位置 — 3：従属節において	109
12.6. 疑問詞のまとめ	110
第13課	113
13.1. 能動態と受動態	113
13.2. 過去分詞	113

13.3. 過去分詞の用法	115
13.4. 現在分詞の用法	116
13.5. 再帰代名詞	118
13.6. 非人称動詞	121
13.7. 命令文	121
13.8. 命令法	122
 第14課	 125
14.1. se 付き動詞の用法	125
14.2. se の位置	126
14.3. 接続詞 se に導かれる従属節	126
14.4. 感嘆文	127
14.5. 直説法・過去形	127
14.6. 直説法・過去形の活用	127
14.7. 直説法の時称体系：現在形と過去形	129
14.8. 直説法・現在形の用法	130
14.9. 直説法・過去形の用法	131
 第15課	 133
15.1. 直説法・未来形	133
15.2. 直説法・未来形：不規則動詞	134
15.3. 直説法・未来形の用法	134
15.4. 直説法・未来形と動詞迂言表現	135
15.5. 内接辞を伴う形式	136
15.6. 主要な動詞迂言表現	137
15.7. 文の構造と動詞の意味	138
15.8. 形容詞の支配	139

目次

第16課	141
16.1. 直説法・複合過去形.....	141
16.2. 不定詞.....	142
16.3. 数に関する基礎的表現.....	145
16.4. 直説法・半過去形.....	147
16.5. 直説法・半過去形の活用.....	147
16.6. 直説法・半過去形の用法.....	149
16.7. 直説法・過去形と直説法・半過去形.....	151
第17課	155
17.1. 直説法・大過去形.....	155
17.2. 直説法・大過去形の活用.....	155
17.3. 直説法・大過去形の用法.....	157
17.4. 複文：名詞節の機能.....	159
17.5. 話法の基礎.....	161
17.6. 話法：変換の原則.....	162
17.7. 直説法・過去未来形.....	163
17.8. 内接辞をともなう形式.....	165
17.9. 直説法・過去未来形の意味・用法.....	165
第18課	169
18.1. 直説法・複合未来形.....	169
18.2. 人称不定詞.....	170
18.3. モダリティー.....	173
18.4. 前置詞と冠詞が縮約しない場合.....	176
18.5. 引用符.....	176

第19課	179
19.1. 命令文：接続法・現在形	179
19.2. 命令文：主語と動詞の形式	182
19.3. 命令文の種類：肯定命令文と否定命令文	184
第20課	191
20.1. 従属節における接続法	191
20.2. 祈願文	193
20.3. 形容詞節における接続法	193
20.4. 接続法・未来形	194
20.5. 接続法・未来形(単純形)の活用	194
20.6. 接続法・複合未来形	196
20.7. 接続法・未来形の用法	196
20.8. 接続法・複合未来形の用法	197
20.9. 副詞節における接続法	197
第21課	201
21.1. 接続法・半過去形	201
21.2. 接続法・大過去形	204
21.3. 直説法・複合過去未来形	205
21.4. 条件文：条件節(副詞節)と帰結節(主節)	207
21.5. 条件文による丁寧・婉曲表現	210
21.6. 比喩表現における接続法：como se	210
第22課	213
22.1. 接続法・過去形	213
22.2. 時称のまとめ：直説法と接続法	215

目次

22.3. 現在の時間軸における前後関係.....	216
22.4. 過去の時間軸における前後関係.....	217
補遺	221
I. 話法	221
II. 話法の変換	226
III. 前置詞	230
参考文献一覧	252
索引	255

SAMPLE

基礎ポルトガル語文法

第 1 課

1.1. 発音と正書法

ポルトガル語のアルファベットはラテン文字にいくつかの補助記号を加えたものです。これらの文字と補助記号を用いて言語を書き表す方法を正書法と呼びます。全体としては、ポルトガル語の正書法の体系はきわめて簡潔で言語音との対応は明快です。

1.2. 文字

ポルトガル語で用いる文字は以下の 26 文字です⁽¹⁾。

文字	名称	音
A/ a	á	/ 'a /
B/ b	bê	/ 'be /
C/ c	cê	/ 'se /
D/ d	dê	/ 'de /
E/ e	é	/ 'ε /
F/ f	efe	/ 'ε.fi 'ε.fi /
G/ g	guê gê	/ 'ge / / 'ʒe /
H/ h	ag	/ . 'ga a. 'ga /
I/ i	i	/ i /
J/ j	jota	/ 'ʒɔ.te 'ʒɔ.ta /
K/ k	capa	/ 'ka.pe 'ka.pa / ⁽²⁾
	cá	/ 'ka /
L/ l	ele	/ 'ε.li 'ε.li /
M/ m	eme	/ 'e.mi 'e.mi /
N/ n	ene	/ 'e.ni 'e.ni /

1. 本書では PE と PB とで同じ語の発音が異なる場合 / 'ε.fi | 'ε.fi / のように縦線で区切り、縦線の左に PE の発音、縦線の右に PB の発音を示す。
2. PE では «capa», PB では «cá» が一般的。

第 15 課

15.1. 直説法・未来形

直説法・未来形の形式は、第 1 活用、第 2 活用、第 3 活用、どの活用形の動詞においても同様に、不定詞に以下の活用語尾を付加することによって得られます。

人称	単数	複数
1.	-ei / 'ej 'ej /	-emos / 'e.muʃ 'e.mos /
2.	-ás / 'aʃ 'as /	-eis / 'ejʃ 'ejs /
3.	-á / 'a /	-ão / 'ẽw /

第 1 活用

■ estimar

単数	複数
1. estimarei / iʃ.ti.mɐ.'rej es.tʃi.ma.'rej /	estimaremos / iʃ.ti.mɐ.'re.muʃ es.tʃi.ma.'re.mos /
2. estimarás / iʃ.ti.mɐ.'raʃ es.tʃi.ma.'ras /	estimareis / iʃ.ti.mɐ.'reʃ es.tʃi.ma.'rejs /
3. estimará / iʃ.ti.mɐ.'ra es.tʃi.ma.'ra /	estimarão / iʃ.ti.mɐ.'rẽw es.tʃi.ma.'rẽw /

第 2 活用

■ temer

単数	複数
1. temerei / ti.mi.'rej te.me.'rej /	temeremos / ti.mi.'re.muʃ te.me.'re.mos /
2. temerás / ti.mi.'raʃ te.me.'ras /	temereis / ti.mi.'reʃ te.me.'rejs /
3. temerá / ti.mi.'ra te.me.'ra /	temerão / ti.mi.'rẽw te.me.'rẽw /

第3活用

■ partir

	単数	複数
1.	partirei / per.ti.'rej par.tʃi.'rej /	partiremos / per.ti.'remuʃ par.tʃi.'re.mos /
2.	partirás / per.ti.'raʃ par.tʃi.'ras /	partireis / per.ti.'reʃʃ par.tʃi.'rejs /
3.	partirá / per.ti.'ra par.tʃi.'ra /	partirão / per.ti.'rẽw̃ par.tʃi.'rẽw̃ /

15.2. 不規則動詞

直説法・未来形において不規則な活用を持つ動詞、dizer, fazer, trazer の活用は以下のとおり、不定詞から -ze- を取り除いて得られた語根に、未来形の活用語尾を付加することによって得られます。

dizer ⇒ dir-
fazer ⇒ far-
trazer ⇒ trar-

+ 活用語尾

	■ dizer	■ fazer	■ trazer
1. sg.	direi	farei	trarei
2. sg.	dirás	farás	trará
3. sg.	dirá	fará	trará
1. pl.	diremos	faremos	traremos
2. pl.	direis	fareis	trareis
3. pl.	dirão	farão	trarão

15.3. 直説法・未来形の用法

(1) 発話の時点より後に実現する状況を示します。蓋然性、予定、意向などを表現します。

Um amigo meu **partirá** para Itália amanhã. わたしの友人が明日イタリアに出発する予定だ。

(2) 発話の時点における推量

Onde é que **poderei encontrar** o João agora? No Café Mandarin?
今どこに行ったらジョアンに会えるだろう? カフェーマンダリンだろうか?

(3) 丁寧表現として

Como é que eu **direi**? 何と申し上げたらよろしいでしょうか?

(4) 依頼、命令

O impresso **será** devidamente **preenchido e enviado** o mais tardar até ao | o dia 10 do corrente. 申込書はしかるべく記入の後、遅くとも今月10日までに送付すること.

(5) 条件の帰結として、不確実な未来の状況について

A recusa das propostas apresentadas simplesmente **adiará** a solução. 提示された提言を拒否すれば、たんに解決が遅れるだけだ.

15.4. 直説法・未来形と動詞迂言表現

未来に実現しうる状況を述べるのに、直説法・未来形のほか以下のような方法があります。

(1) ir の直説法・現在形＋不定詞

近接未来をあらわすもっとも普通の形式です。

O meu primo **vai partir** para os Estados Unidos amanhã. (vai partir = partirá) 私の従兄弟は明日アメリカに出発します。

(2) haverの直説法・現在形＋de＋不定詞

未来形に置き換えられる形式のひとつ。PEでは口語でもよく用いられますが、PBでは文語的な文体における形式です。

1. sg. hei de estimar
2. sg. hás de estimar
3. sg. há de estimar
1. pl. havemos de estimar
2. pl. haveis de estimar
3. pl. hão de estimar

補遺

I. 話法

話者が他者の思考や発言を言語により伝える方法をいう。伝達の方法によって、伝統的には直接話法、間接話法及び描出話法（自由間接話法）を認めるが、本書ではさらに自由話法を加え、4 種類の話法を扱う。

(1) 直接話法

話者が他人の思考や発言をそのまま引用・再現して伝達する方法。引用を導く動詞を伝達動詞と呼び、典型的な伝達動詞には afirmar, anunciar, dizer, perguntar, responder, sugerir などがあるが、話者の意図により伝達動詞はさまざまな可能性がある。また引用される内容は基本的には、コロン (:) のあとにクッション記号 (—) を介して示す⁽¹⁾。

O homem disse: — O assunto é importante. 男は「その件は重要です」と言った。

伝達動詞を後置してもよい。

— O assunto é importante — disse o homem.

伝達動詞は引用の間に挿入されたり後置されたりすることもある。

O meu amigo respondeu: — Hoje está mesmo frio, e parece que vai nevar. 「今日は本当に寒いし、雪が降りそうだ」と私の友人が答えて言った。

1. ポルトガル語では、それぞれ «: dois pontos», «— travessão» と呼ぶ。

— Hoje está mesmo frio — respondeu o meu amigo —, e parece que vai nevar!

— Hoje está mesmo frio, e parece que vai nevar — respondeu o meu amigo.

O programa não lhe parece um pouco confuso? — perguntou o colega com ironia. 「計画は少し込み入っているように思いませんか？」と同僚が皮肉を込めて私に尋ねた。

話者が自問自答する内容を引用する場合もある。このような場合は実際の発話とは異なることを示すため二重山括弧（二重ギョメ）«...» を用いる⁽²⁾。

«Tens de tentar!» — encorajei-me a mim mesmo. 「試してみなければならぬ」と私は自分自身を奮い立たせた

SAMPLE

(2) 間接話法

話者が他人の思考や発言を自らの解釈を加えて引用・伝達する方法。直接話法が演劇における台詞を思わせるのに対し、間接話法はより客観的で冷静な話者の判断の提示という印象を与える。文法的には、引用される内容が伝達動詞の導く名詞節の形をとる。伝達動詞の内容によって、名詞節を導く接続詞は que (～ということ) あるいは se (～かどうか) を用いる。

A Emília disse que a comida do restaurante não era nada de especial. エミリアによると、そのレストランの食事は特に変わったものではないとのことだった。

2. 文、語句、外国語表現などの引用にはポルトガル語では基本的に二重山括弧（ポルトガル語では «aspas» と呼ぶ）を用いる。ex. «ratos» para computador, «very good».

- com referência a ... 「に関して」.

Com referência ao ofício de 7 de dezembro findo, tenho a honra de levar ao conhecimento de V. Ex^a o seguinte: 去る12月7日の公文に関して貴台に以下のとおりお知らせいたします.

- com sacrifício de ... 「を犠牲にして」.

Os docentes estão habituados a trabalhar **com sacrifício da** sua vida pessoal. 教員は私生活を犠牲にして働くことに慣れている.

- com vista a ... 目的「のために」.

A comissão apelou aos países industrializados para acelerarem os seus esforços **com vista a** facilitar o acesso aos seus mercados. 委員会は工業国の市場へのアクセスを容易にすべくこうした諸国の一層の努力を訴えた.

- de acordo com ... 「によると」「に基づいて」.

De acordo com a informação oficial, a visita oficial do Presidente foi adiada para o próximo ano. 公式の情報によると、大統領の訪問は来年に延期された.

- de forma a ... 目的「するために」⁽¹³⁾.

A empresa terá emitido um comunicado, **de forma a** esclarecer o mercado sobre o seu novo produto. その企業は新製品がどんなものかを市場に対して明らかにすべく発表を行ったようである.

Na entrevista de imprensa naquele país tendem a usar expressões cada vez mais agressivas, **de forma a** justificarem posições inaceitáveis do ponto de vista democrático. かの国の記者会見では、民主主義的な観点からは受け入れがたい姿勢を正当化しようと、ますます攻撃的な表現を使いがちになっている.

13. 不定詞による節あるいは que の導く名詞節（接続法）に従える.